

7	為取替濟口証文之事 (薬師堂境内森木御堂修覆のため売木に付)	嘉永5 (1852)年	吾妻郡中之条町 関善平家文書	PF0209	43/235
---	-----------------------------------	----------------	-------------------	--------	--------

現在でも四万温泉の観光では、奥の日向見薬師堂へお参りする方が多いと思います。今日ほど医療が発達していなかった頃、人々が病の治癒を求めて訪れる温泉地では、薬師如来が信仰される場合が多くありました。日向見薬師堂は県内で現存最古の寺院建築です（国指定重要文化財）。

この文書は、日向見薬師堂境内の「森木」売却・伐採をめぐる事件の示談書ですが、一人の百姓の不可思議な体験も記されています。

文書によると、薬師堂の堂守は修験の三光院でしたが、三光院を担う人が亡くなった後は、百姓の源八が御堂や境内の「森木」を「大切に守護」してきました。ところが、善兵衛らが修覆のため、「森木」を山師の律五郎へ売却。早速やってきた大勢の「柚・木挽き」によって「大門」の通りの杉が伐採されました。そうしたところ、9月21日の夜半頃、源八は枕元に薬師如来の尊像が光明を照らし顕れるのを見ました。驚き拝むと、如来の姿はすぐに消えました。源八は、如来が「森木」を惜んでいると思い、売った証人・善兵衛のところへ行き、売木をしないよう話しますが、断られ…… 結局、木は買い戻され、伐採された杉木の場所には、善兵衛が苗木が植え付けることになりました。

興味深いのは、如来の姿を見たのは源八だけなのにも関わらず、最終的には薬師様の「罰」を理由に、「氏子」ら地域の人々が木々の復元・維持を決めたことです。売却をめぐる背景にもともと関係者の確執があったのか、また、最初は「一度売却したからには方法がない」と源八の話を断った善兵衛らが改心したのかは不明です。

ただ、これまで森木を守ってきた源八は、売却の話に困惑し、実際に伐採されるに及び、眠れないほど深く苦悩していたと想像されます。当時の人々の薬師如来への信仰や心の深さがうかがえる史料です。

※「関善平家文書」は複製本による閲覧です（マイクロフィルム収集文書）

内証書に就て

一 当村温泉の奥、日向山定光寺、

往古より本山修験三光院、御除地

式畝式拾歩所持、薬師如来堂守に

有るに、右三光院死失の後、百姓

源八御堂並びに境内森木、先年より

立ち来たり候まま、大切に守護致し来たり候処、

この度（たび）御堂修覆のため、善兵衛・定右衛門

森木売り木致し候様、それぞれの者へ相談

いたし、八月中、原岩本村山師（やまし）津五郎方へ

売り主定右衛門・証人善兵衛・世話人半左衛門、

取り替わし済み口証文の事

一 当村温泉の奥、日向山定光寺、

往古より本山修験三光院、御除地

式畝式拾歩所持、薬師如来堂守に

これ有り候処、右三光院死失の後、百姓

源八御堂並びに境内森木、先年より

立ち来たり候まま、大切に守護致し来たり候処、

この度（たび）御堂修覆のため、善兵衛・定右衛門

森木売り木致し候様、それぞれの者へ相談

いたし、八月中、原岩本村山師（やまし）津五郎方へ

売り主定右衛門・証人善兵衛・世話人半左衛門、

右三人居ありて賣渡り候所早速に  
 杉木枕へ傳入此大門へ直ぐ伏せ  
 候所源八義入りて夜半候所  
 候所夜半の頃目を開け見候れば薬師  
 如来の尊像枕本に光明を照らし  
 候えば源八義驚き入り拝み奉り居り候處早速  
 退き給ひ候えば如来森木を惜しみ  
 候哉(や)に相心得善兵衛方へ参り右の由を  
 申し森木売り木致さず候様申し候えども一段  
 山師方へ売り払い候上は致し方これ無き趣(おもむき)  
 相断り候間余儀無く判頭善之丞同道にて

右三名前にて売り渡し申し候所、早速に

杉(そま)木挽(こびき)大勢入り込み、大門の通り杉伐り返し候、

然ル所、源八義、九月廿一日の夜、寝伏し罷(まか)り有り

候所、夜半の頃、目を開け、見候えば、薬師

如来の尊像枕本(元)に光明を照らし、相頭(あらわ)れ

候えば、源八義驚き入り、拝み奉り居り候處、早速

退き給ひ、さ候えば、如来森木を惜しみ

候哉(や)に相心得、善兵衛方へ参り、右の由を

申し、森木売り木致さず候様申し候えども、一段

山師方へ売り払い候上は、致し方これ無き趣(おもむき)

相断り候間、余儀無く、判頭善之丞同道にて、

(後略)